

2月8日

2018年
(平成30年)

木曜日

第19015号(日刊)

土、日曜・祝日は休刊

Metal & Technology

鉄鋼新聞

桂スチール

短尺BH 一次加工を自動化

今期、老朽更新含め10億円投資

生産効率向上、省力化推進

ビルトH形鋼加工最大手の桂スチール(本社・兵庫県姫路市、社長・三木桂吾氏)は、短尺BHの一次加工自動化など省力化や生産効率の向上を狙いに、今期(18年9月期)設備投資を進める。自動溶接機の更新など老朽化対応も含め、今期投資額は昨年並みの約10億円を見込む。

短尺BHの一次加工設備間における搬送な自動化設備は、機械メカが作業負担となっていたが、これらを自動化すれば、省力化・生産効率化が実現できる。また、自動化により夜間操業もできるようになるため、1日当たりの生産量は5倍以上に

約3億5千万円を投じるもので、岡山第3工場(備前市三石)で導入。「切断」「開先」「穴あけ」「スケール除去」などを自動化できる。これまで加工母材の

今年9月ごろから操

業を始める予定で、早期の営業運転を目指していく。また、同社は昨年、

岡山第2工場(備前市吉永町)で、大型BHを一貫して生産できるよう、イタリア製加工機を導入した。これまでも同社で一貫加工できるBHは、ウェブ高1500×フランジ幅800ミが最大だったが、最大2500×1200ミまで一貫加工

できる体制が整った。これに関連して、今年3月には大型開先機も導入する予定だ。

同社は岡山県を中心に千ト、穴あけ・開先などに計6工場があり、月産量はBHで6千ト。厚板溶断も自社

で手掛けており、月産で繁忙感を強めている。他産業分野における鋼量は約7千ト。足元は、五輪後の需要減に構造物需要の取り込みが、五輪後の需要減に構造物需要の取り込みも進めている。東京五輪関連需要など備えるため、土木なども進めている。